

---

# 黒髪、ストレート。

RENNA

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒髪、ストレート。

### 【コード】

N0078I

### 【作者名】

RENNA

### 【あらすじ】

失恋した私の心境と電車の中の話。

いつもの場所に座った。

一番前の車両の連結部分に近い三人掛けのシートの一番右側。

ここだと乗り降りするいろんな人がよく見えるから。

黒縁メガネをかけたサラリーマン、オシャレを覚え立ての大学生、年齢不詳の女、太った人、痩せた人、おじいさん、小学生、杖をついた人、いろんな人が無言のまま乗ってきて、無言のまま降りていく。

時々聞こえてくるのは、一緒に乗ってきた友達や恋人達の話し声だけ。たまたま、乗り合わせたただけだから。

無言の車内は暗黙の了解にのっとって、定刻通りに進んでいく。

私は一人、今日もぼんやりとそんな車内を見ていた。

眼球だけはせわしなく、ドアを見張ってはいたのだけれど。

本当は、そんな私を私は無視しなかった。

あの人を待っている。なんて事、忘れたかった。

少し前には自然な事だったのだ。

私たちは付き合っていて、自然な恋人と同じように待ち合わせをし

て、同じ家に帰って、ご飯を食べて、一緒に眠った。

別れを悔やんでいるつもりはなかった。

彼は実際、私を大事には思っていなかったのだろう。他に何人か女がいるのもなんとなく知っていた。

だから、別れられて本当に良かったと私は思ったし、友達もよく頑張ったと褒めてくれた。

それで全部終わったのだと思っていた。

日常はそんなに優しくはない。普通に生きていく為にはやらなければならぬ事はたくさんあるのだ。

仕事や食事や遊びにいくにはそれなりの体力や気力がある。

それらに紛れている時は別段気にはならないのに、

なぜか一人、

電車に乗った時だけ、

私はたまらなく寂しくなった。

たくさんの人の中で私は一人なのだと感じてたまらなく寂しくなった。

そして探し始めたのだ。あの人の姿を。

こんな時間に乗合わせるはずがないのは知っている。

連絡だってもうしてはいない。

いつだって彼の帰宅時間に合わせて時間を潰してたあの喫茶店に行  
つてみようかとも考えてはみたけど、考えるだけでやめた。

私を見つけて？

私はここにいる。

私を見つけて。

私は何も変わってはいない。

愛も、服も、あなたが好きだと言ってくれたまま。

涙が、またいつものように流れた。

うなだれた私の頬に長く伸ばした髪がはりつく。ふとながれるアナ  
ウンスが、いつもは通り過ぎる降り立ったことの無い駅名を告げる。

降りよう。

髪を切ろう。

明日は顔をあげていたいから。

何も変わらないかもしれないけど。

ガバッと身を起こした涙顔の私を、目の前に立っていた大学生が一

瞬驚いた顔をして、耳につけていたイヤフォンを外しながら

「大丈夫ですか？」と聞いた。

「大丈夫です」にっとなつて笑つて電車を降りる。

なんだ。みんな、口、きけんじゃん。ホームに降り立ってから、振り返つて走り去つていく電車を見ていた。

突風に煽られてぐしゃぐしゃになった髪を一度なでつけて、私は改札に向かった。

心持ち、右上を向いて。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0078i/>

---

黒髪、ストレート。

2010年12月1日07時27分発行